

資源マップも更新中です

帯広市内と近郊の就労系障がい福祉サービス
事業所への聞き取りを随時進めています



令和3年1月13日（水）～15（金）

就労継続支援 A 型事業所
街のパン屋さん（帯広市）

就労継続支援 A 型事業所
Cafe ikoi（帯広市）

就労継続支援 B 型事業所
フリッパー（帯広市）

就労継続支援 B 型事業所
ココスマイル（帯広市）

株式会社とかちサポーターズ 就労継続支援 A 型 街のパン屋さん（A 型）

街のパンさんは平成 24 年に開所され、パンの製造から販売までを行っています。緊急事態宣言下の自粛に伴いパンを買いに来て下さるお客様が増え、パン作りに係る作業量が増えた一方、施設外就労としてクリーニング店から請け負っている洗濯物たたみの作業は減少するという影響があった様です。

見学の段階で「パンを作りたいから」と利用を希望される方に対しては、まずは洗い物中心の作業が多いことをお伝えした上で、利用する上での目標を伺っているとのことでした。利用されている方の半数が長年働かれているという現状から、経験を積まれるにつれて担当するパンの種類が増えるというスキルアップがあるようですが、事業所内での作業意欲には繋がっていると感じるものの、一般就労に向けた支援という面では、活動内容がなかなか就労へと結びついていかないことへの課題も感じておられるとのこともありました。



サービス管理責任者の姉崎
さんにご対応いただきました。

株式会社エクセルファクトリー 就労継続支援 A 型 就労支援事業 Cafe ikoi（A 型）

4 月で開所 8 年を迎える A 型事業所 Cafe ikoi を訪問しました。

コロナ感染拡大の煽りを受け、現在は主軸の事業であるカフェの営業を休業されまだ再開の目途が立っていないようです。しかし、SNS で事業所の農業活動や雑貨制作活動の様子を見てくれた方から、お仕事をご依頼いただくことが増えている状況等もあり、新たに良い変化もあったようです。また、この厳しい状況をあえて利用者さんと共有し、仕事を継続して任せていただくには、「信頼につながる作業精度を保つことが大切」という意識を全体で確認したことで作業意識の向上につながったとのこともありました。

その他、一般就労につながった方が生活面の崩れから退職に至るケースがあったとの話題もあがり、事業所での活動を「自立」に向けたステップアップの場と捉え、どのようにサポートしていくかが課題であると感じているとのことでした。



代表の青砥さん（左）、
サービス管理責任者の駒形
さん（右）にご対応いただき
ました。

株式会社テヲトル 就労継続支援 B 型 フリッパー（B 型）

フリッパーの主な作業内容は飲食店の割り箸入れ、手工芸品の製作や製本作業、ウォーターサーバーの清掃など多岐にわたっています。平成 26 年の立ち上げ以前より関わりのある企業から仕事を依頼されることもあるようです。手作りのあみぐるみはハンドメイドのオンラインショップで販売しており評判も良いとのことでした。

新型コロナウイルスが広がりを見せ始めた初期の段階で、独自の感染防止ガイドラインを作成し利用者さんや家族へ通知するなど早めの対策を取られたようです。

利用者さんの個別の目標に応じてマナーや挨拶・読み書き等の支援も行っており、休憩時間に自主的に取り組まれる利用者さんもお話しいたしました。



取締役の村上さんにご対応
いただきました。（人気のあ
みぐるみ「ゆるねこ」と一緒
に）

合同会社リノケア 就労継続支援B型 就労支援事業所 ココスマイル（B型）

合同会社リノケアは元々児童デイサービス事業を運営しており、ココスマイルは通所されている子ども達の将来の活動場所ということをイメージし、平成 27 年に開所されたとのことでした。

主な作業内容はもくし作りや小物制作、施設外就労で牛舎や飲食店の清掃等を行っています。

緊急事態宣言が出た時には、3 週間ほどもくし作りを在宅で行ってもらい、その間は 1 日 2 回電話で体調管理を行うなどの対応をされたそうです。

一般就労を目指している方には、その方の気持ちを応援し一緒に職種を検討するなど相談に応じているとのことでした。しかし就労先の人間関係で離職してしまうケースがあり、送り出した後の関わり方や、就業・生活支援センターの役割を知りたいという声を頂き、就労をお考えの方についての連携方法やだいちの役割についてお伝えさせていただきました。



代表の北野さんにご対応いただきました。

今後も訪問を進めて参りますので、よろしくお願いいたします